

台風23号襲来から2年

教訓を生かす ～防災・減災 その後の取組み～

私たちのまちから尊い命を奪い、大切な日々の暮らしを奪い、美しかったふるさとを傷つけた平成16年の台風23号。あれから2年が経ちました。

市では、引き続き、あの時の教訓を生かし災害に強いまちづくりを市民の皆さんの協力のもとに進めています。

2年目の節目にあたり、防災・減災に関するこの1年間の主な取組みを紹介します。



▲洪水ハザードマップを広げて熱心に説明を聞く参加者

■本庁・総合支所に 自家発電装置を設置（1～3月）

停電時にも、本庁や総合支所が機能するよう、自家発電装置を各庁舎に設置しました（総合支所については未設置の日高と但東のみ）。特に、本庁は、洪水にも耐えうるよう、高さ4・5メートルの鉄骨の架台の上に設置しました。

■市内7会場で防災・減災を 語る会を実施（1月11～31日）

地域防災計画などに市民の皆さんの意見・提言を反映させるため、市長などが市内7会場に出向き、防災・減災を語る会を実施しました。防災・減災について多くの市民の皆さんから貴重な意見をいただきました。

■ファックスによる防災情報 送信サービスを拡充（3月1日）

防災行政無線（有線）で放送した防災情報をファックス送信するサービスを耳の不自由な方だけでなく、区長、自主防災組織の代表者などにも行うことになりました。

■とよおか防災ネットを開設 （4月1日）

防災情報専用の携帯電話ホームページを開設しました。

災害が発生したとき、避難準備情報や避難勧告、避難指示などの緊急情報などをメールで市民の皆さんにお知らせできるようにしました。

■災害時要援護者登録制度を開始 （5月）

本人の同意を得て、一人暮らしの高齢者や重度障害者など災害時要援護者をあらかじめ台帳に登録し、区長、民生委員、消防団など地域支援者にこれを開示し、日ごろの声かけや災害時の避難情報の提供、避難支援などに役立てるようになりました。

■兵庫県建設業協会豊岡支部と 災害協定を締結（6月1日）

災害時、市からの要請に基づき、市内の建設業等の皆さんに、応援対策に重機などを出動させたり、活動



▲調印を終えて握手を交わす市長と川嶋支部長

中に得た情報を市に報告するなどの支援をいただくことになりました。また、支部会員以外の方とも協定締結を進めています。

■第2回水害サミットに参加 （6月6日）

本市ほか3市の呼びかけにより昨年からはまった水害サミット。今年も、激しい水害を経験した全国の市町長が東京に集まり、水害で得た教訓や治水への思いを語り合いました。



▲2回目を迎え、さらに深い議論が展開された水害サミット

豊岡市防災マップを作成（6月）



▲防災マップには、100年に一度の大雨で堤防が決壊した想定で、浸水の深さが色分け表示されている

洪水を中心に津波・高潮による浸水想定や土砂災害危険箇所を記載した防災マップを作成しました。

豊岡市東部、竹野北部など市域を11区画に分けてそれぞれ作成し、市内全戸に配布しました。

梅雨前線に伴う豪雨で警戒態勢

（7月18日～19日）



▲本庁や各総合支所は、災害情報の収集や災害対策などを徹夜して警戒にあたった

合併後、初めてともいえる本格的

な水害対応となり、市役所本庁内に災害対策本部を設置するとともに、竹野を除く各総合支所にも地域災害対策本部を設置し、河川の氾濫や土砂災害に備えました。

また、435世帯1、424人に避難勧告を発令しました。

夏休み子ども防災監養成講座を開設

（7月28日、8月4日・10日）

自助・共助による防災・減災意識を子どもの時から持つてもらおうと、夏休みに小学5・6年生を対象として講座を開設しました。

延べ50人の子どもたちが、図上訓練や救急救命法、非常食の試食などに挑戦しました。



▲図上訓練などを通して、災害に強いまちづくりなどを真剣に話し合う子どもたち

豊岡市など大水害被災市町が国へ要望書提出

（8月4日）

豊岡市や新潟県三条市など、平成14年から17年の間に水害を受けた全国の23市町が、水害予防の充実を求める合同緊急アピールを国に対して行いました。

地域防災計画を作成

（9月13日）

昨年からの市民の皆さんにも加わっていただいた防災会議で検討を続けてきました。

防災ビジョンを「みんなの力で命と暮らしを守る」とし、力を合わせ、災害に対応する計画となりました。

防災・危機管理担当幹部職員を採用

（10月1日）

市の防災・減災体制をさらに充実させるため、退職自衛官を防災・危機管理担当の幹部職員として採用しました。（詳細は21ページに掲載）

防災訓練の実施（随時）

例年の北但大震災防災訓練（5月23日・城崎町桃島）、消防団・自主防災組織合同訓練（各地域随時）のほかに、県と合同で土砂災害避難訓練（7月30日・新堂区）、合同防災訓練（9月3日・コウノトリ但馬空港）を実施しました。

台風23号から2年を迎えて



豊岡市長
中貝 宗治

平成16年10月20日は、豊岡市民にとって、忘れることのできない日です。あれから2年、ありふれた日常の大切さ、そして、命の大切さを考えない日はありません。

災害時における市の最優先課題は市民の皆さんの「命」を守ることで。しかし、大規模災害では、行政機関による「公助」に限界があるのが事実です。その際、力を発揮するのは自分の命は自分で守る「自助」、そして、人と人のつながりによる「共助」です。

台風23号時、2日間、水の中に取り残された人がこんなことを言われました。「孤立した。しかし、孤独ではなかった」

あの時、私たちを救ってくれたのは人と人の絆でした。この地域の絆をより強めながら、かけがえのない命と財産をみんなの力で守ることが、できる災害に強いまちづくりをさらに進めています。引き続き、市民の皆さんのご支援をよろしくお願いたします。